

ポジティブリスト対象害虫の解説

アザミウマ科の一種

学名：*Thrips australis* (Bagnall)

英名：Australian gum tree flower thrips

本種は、オーストラリア原産で日本未発生のアザミウマ科の一種である。輸入植物検疫では、主にオーストラリア産ユーカリ属切り花から発見される他、イタリア産やイスラエル産ワックスフラワー等の切り花からもしばしば発見されている。

分布地域：オーストラリア、ニュージーランド、ヨーロッパ、アフリカ、北米及び南米。

寄主植物：フトモモ科、特にユーカリ属の花。

形態：雌は体長 1.5mm 前後。体色は変異があるが、通常、褐色がかった黄色で第 2～8 背板の中央部及び第 10 節の大半は暗褐色となり、前翅はやや褐色に曇る (図 1)。触角は 7 節。後胸背楯の刻紋は多角形の網目状 (図 2)。前翅前脈の刺毛列は基部から先端までほとんど途切れない (図 1a)。腹部第 8 背板後縁の櫛歯状突起は両側部のみにある (図 3)。腹板及び側背板は多数の副刺毛を持つ (図 4)。雄は雌よりも小型で一様に淡色。第 3～7 腹板に各 1 個の横長の腺域を持つ。

本種は日本に広く分布する同属のビワハナアザミウマ (*T. coloratus*) に体色が似るが、前翅前脈の刺毛列が途切れないこと、後胸背楯板の刻紋が網目状であること、第 8 背板後縁の櫛歯状突起が両側部のみにあること等により容易に識別できる。

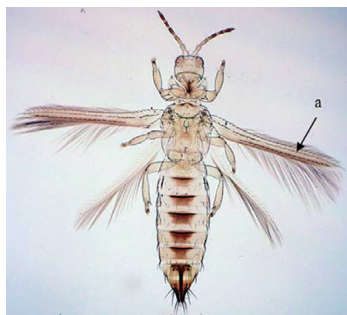


図 1 雌成虫 a 前翅前脈刺毛列

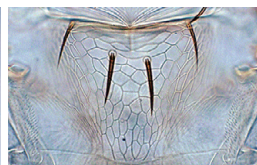


図 2 後胸背楯の刻紋

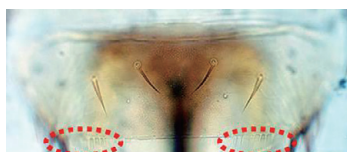


図 3 腹部第 8 背板の櫛歯状突起



図 4 右側背板の副刺毛

さび病菌の一種

学名：*Gymnosporangium juniperi-virginianae* Schwein

英名：cedar-apple rust

本菌は、リンゴやナシに重大な被害を及ぼす、夏孢子世代を持たない異種寄生性のさび病菌である。

分布地域：アメリカ合衆国、カナダ

宿主植物：(さび孢子世代) リンゴ属、ナシ属、サンザシ属 (冬孢子世代) ビャクシン属

病徴：リンゴ属：葉では、最初、葉面に淡黄色の小斑点が生じ、徐々に拡大し橙色病斑を形成し、早期に落葉する。果実は果皮に褐色の壞疽斑を生じる。葉及び果実病斑部には、精子器及びさび孢子堆が多数形成される。

ビャクシン属：枝上にこぶ状 (gall) の冬孢子堆が形成される。

病原菌の形態：(さび孢子世代) さび孢子堆は銹子 (しゅうし) 毛型。橙～白色、綿毛状を呈し (図 1)、内部に単胞、球形～広楕円形、シナモン色のさび孢子を形成する。

(冬孢子世代) 冬孢子堆は、未成熟時はこぶ状 (径 1～3cm) を呈し (図 2)、成熟すると橙色、長円筒形のゼリー状となる。冬孢子は 2 胞、円筒形から紡錘形、黄金色。

識別：各世代宿主が重複する本邦既発生種の *G. asiaticum* 及び *G. yamadae* との識別は、本種は、①さび孢子堆が綿毛状であること (既発生 2 種は管状)、②さび孢子が大型であること、③冬孢子堆が未熟時にはこぶ状 (gall) を呈し、成熟時には円筒形・ゼリー状となること、④冬孢子が大型であること、から識別できる。



図 1 綿毛状のさび孢子堆 (葉裏)



図 2 こぶ状の冬孢子堆

(FORESTRY IMAGES

(<http://www.forestryimages.org/browse/detail.cfm?imgnum=5222074> 及び 5429983) から許可を得て掲載。

引用元：Florida Division of Plant Industry Archive, Florida Department of Agriculture and Consumer Services, Bugwood.org)